



5月の主な行事

- | | | | |
|------|-------|-------|-----------|
| 1日 : | メーデー | 8日 : | 母の日 |
| 2日 : | 八十八夜 | 12日 : | 看護の日 |
| 3日 : | 憲法記念日 | 16日 : | 旅の日 |
| 4日 : | みどりの日 | 17日 : | 世界電気通信記念日 |
| 5日 : | こどもの日 | 31日 : | 世界禁煙デー |



今月のかわら版 : 1 「グリーンエネルギーでのインフラづくりを！」

3月11日に発生した東北関東大震災で被害に遭われた方には心よりお見舞い申し上げます。
この大震災による災害は、16年前の阪神淡路大震災の被害を越える未曾有の人的・物的被害をもたらしました。復旧にはまだまだ時間が必要ですが、被災された方々の生活が一刻でも早く普通の生活に戻れるようお祈りいたします。
さて、この大震災では原子力発電に関する安全性が崩壊し、日本の環境政策に大きな影響を与えることになりました。温室効果ガス削減のための重要施策として考えていた原子力発電所の拡充が今回の大震災で難しくなったことです。
では、原子力に変わる温室効果ガスを出さないエネルギーにはどのようなものがあるのでしょうか。みなさんよくご存知の水力発電や太陽光発電や風力発電などがあります。そして、まだまだ耳慣れないのですが、バイオマス発電（※1）なども再生可能なグリーンエネルギーとして注目を浴びています。
これらの発電能力は火力発電や原子力発電に比べ低いため、今すぐに代替することは難しいとされています。しかしある地域では、地域ぐるみでこのグリーンエネルギーをその地域の電力源とするインフラを作ろうとの取組みが行われ始めています。

たとえば、岩手県葛巻町では10年前から風力発電や牛糞などを利用したバイオマス発電などの設備を自前で作り、町の70%の電力を賄うようにしています。また、山口県上関町祝島では、太陽電池とし尿を生かしたバイオマス発電、小型風力発電を順次導入し、10年後には祝島に必要な1000キロワットの電力を供給するインフラを作ろうと動き出しています。こうした取組みは、まだまだ小さな単位での取組みですが、今後は国レベルで確実に広げて行く具体的施策が望まれます。
また、今回の大震災で失われたインフラを再構築する際には、一刻も早く以前の生活に戻ることを第一に、グリーンエネルギーを使っでのインフラ作りを検討することも期待されます。

（※1）バイオマス発電とは
間伐材や木屑などの木質や生ごみや牛の糞尿などのバイオマス（量的生物資源）を用いて発電する設備をいう。発電方法は各資源の性質によりさまざまなやり方がある。バイオマス発電で作られた電力は、温室効果ガスを出さないカーボンニュートラルな電力と定義されている。

今月のかわら版 : 2 「緑のカーテン準備は春に」

夏の強い日差しを遮り、室温の上昇を緩和してくれる「緑のカーテン」。
これは、住宅でも取り入れることのできる温暖化防止対策のひとつで、春が準備を始めるベストシーズンです。
夏場は太陽の熱で外壁やベランダの床などが暖められ、日が落ちてでもなかなか冷めません。そして夜になっても輻射熱として室内に入り込んでしまいます。
アサガオやヘチマなど、ツルを巻きつけながら成長する植物を植えて、窓の外に緑のカーテンをしつらえると、庭やベランダからの熱を遮る効果があります。
また、植物は吸収した水分を葉から発散しており、その水分が水蒸気となるときにまわりの熱を奪い冷却してくれる効果もあります。すだれやよしずなどで日差しを遮るよりも、涼しさを与えてくれます。
室温の上昇を抑えることができれば、冷房を控え、室外機からの廃熱を減らすこともできます。

植物の種をまく時期は、4～5月が適しています。種をまく時期が過ぎてしまった場合でも、苗を購入すれば6月頃でも間に合います。ガーデニングは初めてという方も、苗を植えるところから始めると失敗なくできるでしょう。
ベランダや窓の外にプランターと植物が巻きつくためのネットを準備します。ネットは支柱を立てて這わせたり、2階でしっかりと固定して1階へ垂らしたりスペースに合わせて整えます。
ツル性植物の定番、アサガオは種類も豊富です。開花時期が異なるものを選べば、夏の間花を楽しむことができます。ヘチマは葉が大きく枚数も多いため、葉が重なり合い、本数が少なくても密度の濃いカーテンができあがります。キュウリやゴーヤなどの夏野菜なら、収穫の楽しみだけでなく夏バテ防止にも役立ちます。アサガオの脇にキュウリやゴーヤを少しだけ植えて、両方楽しむのもいいですね。

